

フューチャー・アース（FE）の推進と連携に関する委員会

24 期に取り組むべき課題について （案）

安成哲三（連携会員、23 期同委員会委員長）

はじめに

23 期は、FE の国際的な枠組みが流動的な中で、日本国内の推進体制を作ることにより力を注ぎ、本委員会との協力のもとに、期の終盤に FE 日本委員会が発足し、その大枠が定められた。24 期においては、国際的な連携の更なる促進に加え、さまざまなステークホルダーの有機的な連携の元で FE 日本委員会を実質的に機能させるために、主として学術的な観点から本委員会は以下の項目についての推進活動を行う。

なお、国際 FE 組織は、（日本の）2017 年度に大幅な組織改革と（executive director などの）執行部体制の交替があり、以下の＜取り組むべき課題群＞も、国際的な部分は、すべて 2018 年度（4 月以降）に本格的に稼働する予定である。国際 FE は、現時点で 2025 年年までの 10 年計画のプログラムであり、国内での FE の推進・連携を図るこの委員会は、以下に掲げる課題群の解決にむけて、国内と国際の両面で取り組む必要があり、24 期（2020 年 9 月末まで）全期間に設置期間の延長が必要である。

＜FE 推進・連携委員会が 24 期で取り組むべき課題群＞

- 1) FE 傘下には、20 以上の地球環境変化研究プロジェクト（GRP）があり、学術会議でも、環境学委員会、地球惑星科学委員会、地域研究委員会などの傘下に、多くの GRP 関連の分科会、小委員会が立ち上げられている。その横断的な連携・協力により、地球環境問題の統合的な解明と解決に向けた研究の長期的な推進は FE の重要な課題の一つであり、継続的に進める必要がある。この一環として、毎年 5 月の地球惑星科学連合（JpGU）では、本委員会が主催で、学術会議の関連分科会、小委員会と共同でいくつかの合同セッションを開催する。この GRP の統合的な研究推進は、環境学・地球惑星科学委員会合同の FE/WCRP 分科会とも連携して進める。
- 2) ICSU-ISSC の合同（ISC 設立）も踏まえ、FE に関連した文理連携・融合の国際連携と国内での研究活動と教育・人材育成の推進を進める。特に、SDG s の各課題にどう取り組むか、そのための研究、教育、実践のあり方を、第一部国際協力分科会、各部の関係委員会、分科会などとも連携して検討する。また、ESD を含む初等中等教育および大学での環境教育と持続可能な社会に向けた人材育成のために、分科会も設置して進める。
- 3) FE 国際事務局（東京）、アジア地域センター（京都）と連携・協働して、アジアが抱える環境問題と持続可能社会のための国際共同研究と国際連携を進める。具体的には、

毎年1回、FE アジア地域委員会とFE アジア地域ワークショップを開催するFE 国際事務局（東京）、アジア地域センター（京都）と連携しながらFE に関する国際研究活動を企画・推進する。特に、アジアで喫緊の環境問題、持続可能性問題で、日本が中心となっているいくつかのKAN（知と実践のためのネットワーク）（広域大気汚染と健康問題、生態系と生物多様性保全、アジアにおける持続可能な消費・生産のあり方、水・エネルギー・食料ネクサスのあり方など）を推進する。

- 4) （社会のステークホルダーを含む）FE 日本委員会と連携して、上記の1）～3）に取り組むと共に、特に日本における環境問題と持続可能社会に向けた喫緊の課題（低炭素化社会のあり方、持続可能な消費と生産のあり方、気候変動に対して柔軟に対処できる社会のあり方など）の検討と推進を、社会の関係するステークホルダーと共に進める。この超学際的活動の推進と運営のために、この委員会の下に、国内連携分科会（仮称）を設置する。